



# 陶芸クラブ



事務 大場 かおり

## 職員の企画発案によるクラブ活動を数年ぶりに復活

6月の爽やかな緑の風が薫るのどかな日、永井先生をはじめ総勢8人のメンバーを募り、最上町内の前森高原にて課外クラブ活動を行いました。はじめに、大草原の緑のじゅうたんに座り、木陰からのぞくやわらかな陽射しの下でお弁当を食べました。普段とは違った空気や景色の中で、お腹も心も満たされたひと時でした。



次に場所を変え、クラブ活動として前森高原内にある羽前最上焼きの“陶芸”教室にて吉田先生ご指導のもと陶芸にチャレンジしました。今回は芸術を楽しむクラブ活動をテーマにし、眠っていた才能?!を開花させ、自分だけのオリジナル作品を作りだそうということになりました。初心者や想像力豊かなメンバーが、ひんやりと冷たく気持ちのいい粘土を手にし、思い思いに作品



を作る反面、知的な一面も目にしました。お料理好きの和江さんと石山さんは、家族みんなで囲む食卓が華やき、お料理が映えるお皿を作りました。橋本さんと私は、観葉植物や花を飾る花器を作りました。陶芸作品は窯で焼きあがると、粘土で作っていた時よりも少し縮むと聞きました。その分を考慮し、粘土で仕上がった私の花器は、まるで“ビビンバ丼ぶり”そのものになりました。

中鉢さんは旦那さんの為に、冨塚さんはどれだけ入るのだろうと言うくらいのピアジョッキを作りました。恭子さんはデコレーションセンスを活かし花びらがちりばめられた、アクセサリーや小物を入れる器を作りました。永井先生はさすがにスケールが違いました。粘土の隣に実物の冷凍岩魚をならべ、岩魚の姿形そっくりで今にも動き出しそうな器を作りました。出来上がったら早速岩魚の骨酒を飲むと言っていました。8人それぞれに、とても個性が出ており、世界に1つしかない貴重な陶芸作品が出来上がりました。陶芸教室の吉田先生ありがとうございました。

今後も職員間のコミュニケーションを兼ねたクラブ活動として継続、あるいは新規開設をし、時々リフレッシュできる活動ができればいいなと思います。



そして7月某日、待ちに待った完成品が届きました。自分の作品を手にした職員の反応は様々でしたが・・・みなさん、私たちの力作の評価はいかがですか?!

